



市民がつくるまちづくり情報誌
コミュニティくさつ

2007年
夏号

さあ夏本番です。草津の夏を彩る花たちを集めてみました。
 アオバナ(右上)・ハス(右下)・スイレン(左)

撮影 大條紘史



今さら聞けない？
 今こそ聞きたい！知りたい！ **NPOって何？**



何の花かな？

食べるのが嫌いな人が多いかな？
 でも焼いて食べると美味しいですよ！
 (答は8ページ)

内容~コンテンツ~

- ②今さら聞けない？今こそ聞きたい！NPOのいろは (滋賀県NPO活動促進担当・大橋昭則さん)
- ③NPOという時間の使いかた
- ④地域で自分らしく生きたい (滋賀自立生活センター)
- ⑤ひとまちキラリ助成 公開ヒアリング
- ⑥草津の市民活動こんな話あんな話
- ⑧草津とふれるエッセイ (葉山川)
- ⑨動植物から学んで素敵なヒトになろう
- ⑩ゆっくり草津街道物語④「南笠の道」
- ⑪俳句散歩「夏」
- ⑫お知らせ



今さら聞けない？
今こそ聞きたい！

NPOの
エヌ・ピー・オー

いろは



最近、身のまわりで「NPO」という言葉を多く聞くようになりました。新聞でも毎日のように普通に載るようになってきました。日本でも最近ようやく定着してきた感のあるNPO。でも「NPOってなに？」という人も多いのでは…今回は、「今さら聞けない」NPOの話を「今こそ聞きたい」と思い、滋賀県県民活動課NPO活動促進担当の大橋昭則さんを訪ねました。

NPOって？ NPOとは違うの？

NPOはNon Profit Organization（民間非営利組織）の略で、環境や子育てなど特定のテーマについて活動する市民活動団体やボランティア団体のことです。同じ民間活動でも企業などのように営利を主な目的としないのが特徴です。県内にはこのような団体が2〜3000くらいあると言われています。その中でも国境を越えるような国際的な活動をしている団体・組織をNGOといい、非政府組織とも言われます。

ボランティアNPOなの？

ボランティア団体が注目を集めたのは神戸の大震災でした。被災した人を助けたり、被災地の復興のため全国から多くのボランティアが集いました。私たちが住む社会には多くの課題があります。社会的に弱い立場にいる人たちの暮らしを良くしたい、豊かな自然環境を残したい、地域の伝統や文化を後世に伝えていきたい、子育てに悩むお母さんを応援したいなど、規模の大きなものから身近なものまで様々です。

NPOは、そのような特定の課題を解決しようとする活動理念（ミッションとも言います）を持ち、その趣旨に賛同した人たちが集まり活動します。特定のテーマや関心事に対して活動するので、町内会とは区別し、「テーマ型」「コミュニティ」などと言われることもあります。

NPOは儲けてはいけない？

非営利と言うのは収益を分配しないという意味で、「収益をあげてはいけない」という意味ではありません

ん。得た利益を社員への給料やボーナス、また株主への配当などの形で分配する企業とは異なり、NPOは基本的に団体の活動資金に活用します。活動には資金も必要ですから何か事業をして収益をあげても構わないのです。

NPOに入ったら、

お金をもらってはいけない？

これも誤解が多いところです。規模が小さなうちは全員無償です。活動もありますが、規模が大きくなるにつれ、主体的に事務をする人や特定の専門性も必要になってきます。だからしっかりと給料をもらい、NPOで生計を立てる人も少ないながらもいます。また給料まではいかなくても、その関わり方の深さや頻度、専門性によって、若干の対価をもらいながらボランティアとして関わる人もいます。もちろん無償のボランティアが多いのは事実ですが、全員がまったくの無償だと団体として活動を続けることは難しいものです。

このように様々な形で団体や活動への関わり方がある「自由さ」もNPOの特徴です。大切なのは自分のできること、できる形で関わることです。



大橋昭則さん(NPO活動促進担当 主幹)は、とても丁寧に質問に答えてくれ、今さら聞けない私たちの「？」も「！」とスッキリ。

取材

茶木修一・中井徹
大條紘史・荒川茂美



NPOはすべてNPO法人なの？

NPOがすべて法人格を取得する必要はありません。ただ活動の内容や規模によっては、銀行口座を開設したり、事務所や備品、車両などの動産や不動産の取得が必要な場合があり、任意の個人の集まりでは限界があります。

そのような団体は活動がスムーズに行えるようNPO法人格を取得します。NPO法人の取得は基本的に所管する都道府県知事の認証をうけますが、活動に対しては色々な報告義務もできて事務量も増えます。このように法人化についてはメリット、デメリットもあるので、自分たちの活動が最もスムーズに行える形を団体の中で、よく検討する必要があります。

ちなみに滋賀県では6月で法人格をもったNPOが約350団体あります。

さて、NPOの基礎を教えてもらったところで、草津で様々な活動を既に行っている人たちはどのようなことを感じているのでしょうか。草津を中心に活動する団体に対して行ったアンケート調査*からみてみましょう。

NPOという時間の使いかた

●活動の目的は？

「社会貢献や地域課題の解消」と答えた団体が38%と最も多く、「会員間の交流や親睦」(31%)、「技術の向上と知識の習得」(20%)という結果になりました。それぞれの関心や興味に集まり、団体として活動することは、自分たちだけの「自己実現や自己満足」だけでなく、活動をするのが、まちや社会とつながる接点としての役割も果たしているようです。また複数回答した団体のうち73%が「会員間の交流や親睦」を選択していて、同じ目的や興味をもった仲間とふれあう楽しさが、活動を継続していくための土台となっているようです。

●活動していて良かったことは？

「交友関係の広がり」(42%)、「社会への貢献」(40%)と、やはり活動を通じて社会や人とつながることが個人に対しても喜びへとつながっている結果となりました。続いて「人間性が豊かになる」(34%)、「新たな経験や知識の獲得」(23%)、「時間の有効活用・生活の張り」(23%)といった個人の内面や生活上の要因が並びます。団体としての活動が、会員各々の考え方や生活にも良い影響を与えている様子もうかがえました。

少し前まで「市民活動」や「ボランティア」というと遠い存在に感じている人も多かったように思います。県NPO活動促進担当の大橋さんの話にもありましたが、社会には行政が行うサービスや企業の経済活動では解決することのできない問題がたくさんあります。でも、そんな問題に気づいた人から、自分の「できること」「できる形」「できるペース」で行動していくことで、一人でも多くの人の笑顔が増えていくんですね。そういう善意を形にしたり、輪を広げていく方法の一つにNPOというのがあるのだと思います。

また、アンケートからも活動をすることで、社会とつながったり、自分の生き方や考え方を豊かなものにしてもらえることが分かります。

2007年から団塊世代と呼ばれた多くの人たちが、定年を迎えようとしています。今まで仕事に費やしていた時間をどのように使うのかは、

これからの数十年間を自分らしく過ごしていくうえで大切な問題です。そんな時、選択肢の一つに、このような活動を加えられてはいかがでしょうか。



*アンケート調査結果「くさつ市民活動 虫めがね」

昨年末から今年にかけて(財)草津市コミュニティ事業団にて市内で活動する市民活動団体のうち326団体を対象に行った「市民活動団体の課題等に関するアンケート」調査を行い、回答のあった155団体の回答についてまとめたものです。市立まちづくりセンターにて無料配布しています。

まち
地域で自分らしく生きたい

滋賀自立生活センター

滋賀自立生活センターの活動を「コミュニティくさつ」に載せていただく事になりとても嬉しく、また緊張しています。今回のテーマは「NPO（民間非営利活動）」。NPOという最近では「NPO法人」格を取得している所を思い浮かべますが、任意による当事者団体やボランティア団体なども「NPO（非営利活動）」と言えます。私たち「滋賀自立生活センター」の活動は後者の方に当たり、少し紹介させて戴きます。

自立生活運動

滋賀自立生活センターは障害のある当事者が、自立を目指す経験の少ない障害のある当事者をサポートする拠点として1992年7月に設立しました。



代表の垣見節子さん（右）と事務局長の福井勲さん（左）

た。C.L.《運動》は、アメリカの人工呼吸器をつけたエド・ロバーツ氏が学生や知人に呼びかけて地域生活を始めたのが自立生活センターです。

「福祉の客体」とされてきた障害のある人たちが、サービスの担い手となり、障害当事者の間に口コミで広がり、86年に日本に輸入されました。そして今では全国に121ヶ所あり、協議会に加盟・連帯しています。

この頃、日本ではNPOや市民活動という言葉はなく、「地域で自分らしく生きたい」と思う障害のある人たちがその思いを実現する為には、「自立IIボランティア集め」となり、ヘルパー制度も皆無に等しい週に1〜2時間の派遣しかなく、「自立して〇〇をする」という自己実現には程遠い生活でした。

すべての人たちのことを考えて

今年で14年を数えるこの活動を通して感じることは、現在の社会は障害のある人に合わせて作られていないため、障害当事者がいろんな場所や場面に参画しないと何も変わらないということなのです。

駅にエレベーターが設置され、多目的トイレが増えたのも、障害者運動の中で本当に困っている障害当事者たちが声を上げてきたからです。障害者が困ることは全ての人が困ります。滋賀自立生活センターは障害のある人たちだけのことではなく、全て



の人たちのことを考えられるように心がけて活動しています。

地域に受け入れられて

当センターが現在の事務所を構えてから8年になります。最初の頃は近所の人たちに受け入れていただけの不安もありましたが、最近では近所の人も「今年も秋桜フェスタはするの？」と声をかけていただけになりました。それは私たちの活動の喜びと支えになっています。来年は15周年を迎え更に盛り上げていきたいと思えます。今後も障害の有無にかかわらず活動し続ける滋賀自立生活センターを、よろしく願っています。(滋賀自立生活センター／土井悠希)

(ここでは実際に草津で活動している同センターにお話を伺い、原稿をお願いしました。) 本文でもあるように障害者にとって、身の回りのサポートしてくれるボランティアを探すことが自立ではありません。でもそのことすらできない重度の障害者もおられます。介助者を募集して探して養成して、派遣してくれるセンターが欲しい。そんな思いからセンターができました。「障害をもつ当事者が集め、育てたボランティアは違う」と垣見さんは言います。また団体として活動することで社会の反応が違うということも印象に残りました。(茶木修一)

ひとまちキラリ助成 平成19年度 公開ヒアリングを開催!



7月7日の七夕の日、ひとまちキラリ助成の公開ヒアリングを開催いたしました。7年目を迎えた今年度は13のキラリと輝くご提案をいただきました。事業開始から数年間は女性からの提案が目立っていたこの事業も、団塊世代の退職期を迎えつつあるからでしょうか、近年、男性からのご提案も増えてきました。

また、今年のご自身の得意な分野で「草津を元気で魅力的なまちにしよう」というご提案が数多くあり、会場は皆さんの善意あふれるあたたかい空気につつまれました。ご提案くださった皆さま、当日見学に来てくださった皆さま、またこれまでにいろいろご協力くださった皆さま、本当にありがとうございました。（上田恵美子）



公開ヒアリングでは、渋川の花踊り歌や風呂敷の連続披露など、活気に満ちていました。

七夕の日に集まった13のキラリと光る提案です。（発表順）

- 子どものための情報リテラシー向上活動 【ハーモニー・コミュニティネット】
- 草津を健康な町に 【たんぼぼ】
- ここがふるさと！ 人にやさしい”まちづくり”
向う三軒両隣り！お元気ですか？ 【南草津団地ボランティア「草の根会」】
- 引きつごう！伝えよう！日本の伝統文化と生活の知恵 【ハッピースマイル！！】
- 生涯学習で学んだ事を地域や社会へ還元しよう 【岩嶋浩樹】
- 食生活の大切さと地域社会の活性化 【サプライズ・クックス】
- ☆マジックで「夢・楽しさ・感動！」を。 【草津迷術会】
- くさつ夢ふうせん 【社団法人 草津青年会議所】
- ☆誰でもできるボランティア/団塊世代の地域デビューを目指して 【土曜大工サロン】
- 川底の”フリー”な空間づくり 【NPO子どもネットワークセンター天気村】
- ☆知的に遊ぶ 【遊・時空間 灯心草舎】
- ★LEGOブロックで楽しくまちづくり 【草津05倶楽部】
- 生涯学習の無限の可能性を知ろう！ 【おはなし・るねす】

☆・・・採択 ★・・・次点

草津の市民活動 こんな話 あんな話



- ☆楽しかったことや、良かったこと、うれしく感じたこと
- ★悲しく思ったことや、残念に思ったこと

福祉

☆草津市内外の弱視の小中学生に教科書を拡大して提供しています。最もうれしいのは1年に1度、小学校に向いて使用してくれる児童に完成した拡大教科書を手渡しするときです。

パソコンでコツコツと作成するという地味な作業で、使ってくれる相手の顔をみるのが少ない活動ですので、子どもたちが一生懸命に教科書に見入っている姿を見ると、これまでやってきて本当に良かったと思います。それと同時に、これからもっと使いやすいものを作っていこうと改めて決意しています。

★1ページに収まっていた文・イラスト・写真などが文字を拡大することにより、2～3ページに分けられていきますが、作り手によって感覚に差があり、異な

たものが出来上がってしまいます。そのため1冊の本を何人かで手分けした場合、作った方の考えにより様々で統一性のないものになります。それらを如何に統一するかがこれからの課題です。



環境

☆仲間と一緒に楽しめることが何よりである。企業戦士の一員としてモノづくりに一途の人生で、植物生き物には疎かったのが身近な川の流域環境に目を向けるようになり、新たな多くの知識を習得できることもこの活動のおかげである。

周辺の清掃活動や水質測定、自然観察中に堤防の遊歩道を歩く人からもいろいろ話しかけられ、多くの方が地域と自然に関心を持っていることがわかり、うれしく思う。子どもたちが川に入り、初めて魚を捕らえたときの感動を見たり、総合学習の流域観察会でシマヘビと遭遇の場面を得意そうに話している様子を見ると、自然との体験の大切さをますます感じる。まずまずの第二の現役中なのかなとも思う。

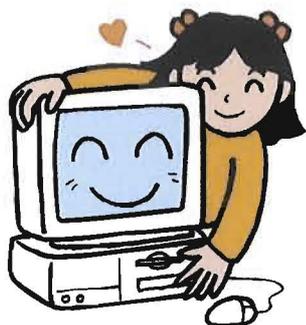
★川は地域の顔ともいわれていますが、葉山川を横切る橋の付近は、一部の心ない人の投棄ゴミが後を絶たない。月一度の清掃日で収集した投棄ゴミを分類中に、明らかに流域に住んでいると思われる人からの投棄ゴミを見るにつけ残念に思う。早朝たまたま投棄している人に注意したところ、「市のゴミ収集で捨てられないゴミなので川に捨てる」という言葉にはあざんとした。

文化・芸術

☆音楽をお聴かせするので、聴いてくださった方の反応がいちばんうれしいです。子育てサークル「はなはな」さんのお手伝いで和楽器を演奏したとき、2才児前後のお子さんたちが泣いたり騒いだりせず、静かに聴いてくれて、こちらが感動しました。



★活動する側に力が入りすぎて、空回りしてしまうことがよくあるので、気をつけないといけないなあと思います。責任感の強い人ほど義務感があり「都合が悪いんだけど、休んだら申し訳ないし…」と言われる。確かに人手不足はどこでも同じなのですが「楽しんで活動すること」が本意だと思っています。



私たちの草津で既に活動をしているNPOや市民活動団体、ボランティアグループはたくさんあります。でも活動をしていない人からみれば「どうしてそんな活動をするの？何が楽しいの？」といった素朴な疑問をもつ人もいるのでは。

ボランティアこのような活動を通じて、どのような楽しみや喜びがあるのでしょうか？またその裏には、どのような「しんどさ」や困ったことがあるのでしょうか。ここでは、草津で実際に活動されている人たちのホッペを聞いてみたいと思い、6団体にアンケートを行い、少しだけエピソードを教えてくださいました。

IT推進

★お伝えしている内容はITに関する技術ですが、技術と共に、そうではないものを感じてくださる場合があります、トテモ嬉しく思うことがあります。

非常に熱心にご参加いただいた男性でしたが、帰り際にわざわざ挨拶をしに近づいてきてくださり、深々と頭を下げて「人生観が変わりました」と言われたときには嬉しいを通り越して、恐縮してしまいました。

お仲間同士、終了後も長くお付き合いを続けてくださり、未だに5年も前の仲間同士が、懇親会を続けていたり、ブログ上で互いに交流をしておられたり、そして勿論ご紹介をした内容がそれぞれの方々のお仕事や活動の中に十二分に生かされているのを拝見すると、〇〇冥利に尽きる思いがします。

★ITに関わることは、妙に自尊心を満足させる部分があるようで、表層の知識だけを必要以上に誇示される姿を見るのが私には一番悲しいことのような気がします。技術だけを誇るあまり、人間としての「心」や「品格」をどこかに置き忘れてしまわれること。

活動をしながら、自分自身もそして関わってくださる皆さんも技術と共に心を磨くことができればいいのにと本気で考えています。

子育て支援

★保育園に行くため広場を卒業していかれたお母さんからご丁寧なお手紙をいただき、大きな励ましと生きがいいただきました。

それにはこう書かれていました。

「広場には毎回参加できませんでしたが、息子にとっていろんな人々と触れ合える初めての場所として本当にお世話になりました。改めてお礼申し上げます。スタッフの皆さまのご健康とサークルの益々のご発展をお祈りいたしております。」



★ようやく広場の雰囲気にも慣れ、お子さんもお母さんもお互いにお友達もできて、広場に来るのが楽しみになっていたお母さんから突然のお話。

「事情があって勤めに出ることになったので、残念ですが今日が最後になります。お世話になりました。」と丁寧に話されるご挨拶に世の中の厳しさを感じ、ただ一言。「頑張って・・・。」としか言いようがなかった。この幼児はまだ1才半でした。

外国人支援・国際交流

★

- 教えている学習者がスピーチ大会に出たり、試験に合格したり…と、やる気を出してくれ成果が見えたとき喜びを分かち合えうれしかった。
- しがらみなく老若男女と知り合えるのがうれしい。
- 外国の人と友だちになり、視野が広がる。
- びわこほのぼの大賞をいただいたり、TVで紹介してもらったり活動が社会に認めてもらえるとうれしい。

★長年活動しているメンバー間に方向性のちがいがでてきて、やめていく人もいます。

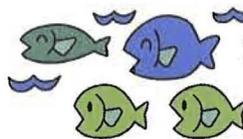
無理に引き止められないし、活動のどこが悪いのかわからないままになるのが残念だ。



草津とふれるエッセイ

葉山川

草津塾
原島 和雄



家の近くを流れる葉山川は水鳥も豊富で、桜や菜の花、ススキ、比叡比良の山なみなど四季を通じ絵になる景観が多い。堤防は遊歩道も整備され、散歩やジョギングを楽しむ市民の憩いの場でもある。この川がかつては天井川で普段は水がなく、大雨となれば氾濫を繰り返し、住民には嫌われていた川だったことは私のような新草津人や子どもたちからは想像がつきにくくなってきた。

葉山という優美な名前の語源は、明治の町村合併で栗東に作られた葉山村から流れてくる川という意味で、集町付近では別称「暴れ川」「きつね川」とも呼ばれていた。乾いている川が下流では晴れていても、上流の夕立で突然水が現れてくることから「きつね」を表現したのである。

ちなみに「はやま」の名は以前は「端山」であったことは草津ではあまり知られていない。明治以前は金勝寺の勢いが強く、今の源流である琵琶湖カントリー付近の丘陵は金勝寺の端山だったのかなと想像する。

風化された花崗岩でできている端山は明治以前は大変荒れており、保水力もなく、いちど大雨が降れば山から平野部に移る六地藏付近で、もう砂混じりの濁流が押し寄せ、住民は人家や田畑を守るために天井川を形成していった。町村合併の際に村の名称を決めるにあたり、緑多き山の願望を込め「葉山」と名づけられた当時が思われる。

昭和47年にJRから河口まで新たに

河道掘削をした「新葉山川」が完成し、それまで天井川として人工的に曲がりくねった旧葉山川は道路となった。これにより堤防決壊の恐れや高い堤防での交通障害から地域の人は解放された。したがって、いまの草津市内の葉山川は35年前に造られた造成地であるが、河川のひとつの役割である「環境」の面でも流域の住民に大きく寄与している。

昔とちがいで、いつも水が流れており、単純だった河道もワンドの出現や植物の成育も進み、魚や鳥、爬虫類など多くの生態系が私と同様、新住民として市民権を得てきた。

植生は造成地に強い帰化植物が多いが、雑草といえどもそれぞれ立派な名前があり、きれいな花も多い。人と自然との係わり合いなどの雑学も身につけながら遊歩道を歩くのも、楽しみである。

身近な場所で自然と接触ができ、子どもたちにとって魚獲りなど自然体験ができるフィールドでもある。ただ、一部の心ない人により、橋の付近で投棄ゴミを多く見かけることは残念である。

川は地域の顔でもある。人の生活が隣り合わせの中での生態や景観環境を大切にしていきたいと願う。

草津夏まつり 江州音頭総おどり

平成19年8月5日(日)

場所 草津駅東側商店街通りおよび
草津第二小学校グラウンド

時間 おまつり広場 16:00~

総おどり 19:00~

☆ 踊りグループの当日参加もOK

(雨天の場合は、8月6日(月)に順延)

主催 草津夏まつり実行委員会、草津青年会議所
お問い合わせ

TEL・FAX 562-3121 (受付 16:00~18:30)

「何の花かな?」こたえ

万願寺とうがらしの花です。ピーマンやシトウの仲間で焼いて花鱈を添え醤油をかけて食べるとやわらかくて、とても美味しく最近人気が出てきています。

花弁は白く中に紫色の花芯がありきれいな花です。ここでは色がお見せできないのが残念です。



動植物から学んで
素敵なヒトになろう！

半夏生^{はんげしょう}は、節分、八十八夜、土用、彼岸などと同じく、雑節の一つで、七十二候の一つにもある。半夏^{はんげ}が生えるところで、夏至から数えて11日目（7月2日ころ）から七夕までを指し、田植えは半夏生に入るまでに終えるのが慣わしだったとか（今は品種も違うが遥かに早い）。

半夏はカラスビシャク（烏柄杓、サトイモ科）のことで、漢方名。私が遊んでいる手入れの悪い畑では、この時期になると確かに見られる。畑の嫌われ者だが、長い柄をつけたような仏炎苞^{ぶつえんほう}は野草然としていて私には遊び相手である。

6月末に山陰に出かけたが、途中、高速道路脇の山の谷合に白い花が咲いてるような光景をよく見かけた。正体はマタタビの葉である。マタタビは蔓性植物で、近くの木に這い上がって覆いかぶさるように茂っており、花が咲くこの時期になると葉が白くなって自己主張する。

花は雨を避けるように下向きに咲くので目立たない。そこで、受粉のために一役買ってもらう虫たちに花の存在を伝えるメッセージとして、一工夫したものと思われる。

このマタタビはネコ科の動物の妙薬であり、事実、大きい雄ネコが小枝1本で幻覚症状を示し、メロメロになる。あるとき、庭のキーウイの根元でネコが口周りを濡らしてゴロゴロしているので不思議に思って調べてみると謎が解けた。キーウイはマタタビの仲間だった。ネコには微量成分が分かるらしい。

この季節、水辺には半夏生（ドクダミ科）という植物が目につくが、やはり花が咲くこの時期に葉の表面が白くなって涼しげである。花は穂状に咲くが、白い葉が存在を誘示している。葉が部分的に白いので、半化粧ともいう。

雨の多い季節に咲く花は、虫の訪問を受ける機会が少ないだろうし、大きい花卉の花は濡れて痛みも早いだろう。では、「花を小さくして葉を花のように見せてPRしよう」、「花を守る工夫

第11回

半夏生のころの植物たち

巧みな自己PRと護身術に共生のヒント

文・絵 矢原功

をしよう」と考えた花も多いようだ。苞（ほう）はその代表格。

ドクダミのあの白い花に見える部分は苞であり、カラーやブーゲンビリアの花に見える部分もまた苞である。

アオバナの花の命は短い、次々と咲く花の蕾は半円形の苞（または苞葉）によって包まれ、強い陽射しと雨という過酷な環境の中でも適度な湿度を保たれ優しく保護されている。

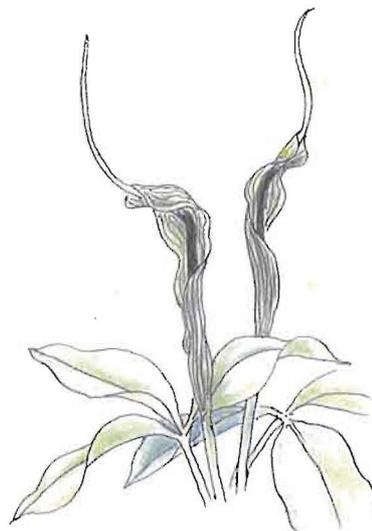
花の季節は異なるが、ハナミズキの花卉に見えるのも苞であり、本当の花は中心部の小さな塊。ミズバショウやザゼンソウの花に見える部分は仏炎苞という苞の一形で、花を覆って守っている。

こうしてみると、気温が激変する時期や雨の多い季節に花を咲かせる植物たちも、過酷な環境変化に耐えるために無限の進化を遂げてきたのが分かる。

話変わって。昨今、共生という言葉をよく耳にする。広辞苑によれば、「異種の生物が行動的・生理的な結びつきをもち、一所に生活している状態」とあるが、人間社会に目を向ければ、思想や活動内容の異なるグループ間にも通じる言葉と理解できる。

メッセージを発信する側とそれを受信する側の意思の疎通が大切であることを、私たちは植物と小さな昆虫の世界からも教えられる。この季節に苞をもつ植物が多いのを知るとも、また、相手の意図を察する思いやりに通じるかもしれない。

意識レベルの高い人類社会にあっては、無形の共利共生こそ、大切なのである。





第4回 南笠の道

イラスト 大村恵

ゆっくり草津 街道物語

今回は季節の変わり目の風を頬に感じながら、草津市観光ボランティアガイド協会の石田はま子さんとともに南笠の田園風景のなかを歩きます。

老上公民館を出発し十禅寺川に沿って歩くと、時折強い風が吹き、脇にある竹やぶが音を立てて揺れます。竹に絡まる「ヒナンカスラ」と呼ばれる赤い実は、蔓の樹液を整髪料に使ったことが名前の由来です。川の向こうに広がる田んぼや畑は、「草津にもまだこんな風景があった」と思わずホッとさせられます。

道の脇にはつんと立つモチの木を中心に、こんもりしている槍塚は戦に使われた槍を集め、このあたりに埋めたと言われているそうです。十禅寺川は広すぎず狭すぎず、季節によってはのどかな感じさえする川です。矢橋と南笠をつなぐ風呂海道と十禅寺川が交差する芝田古墳橋で石田さんがさす指の先には南笠古墳群。江戸時代には22基もの古墳が確認されたそうです。現在は前方後円墳の1、2号基と円墳の3号基を目にすることができま。市内で現存する前方後円墳を見られるのは、この南笠古墳だけです。古墳を囲む景色はほとんど田んぼですが、数十年前までは桑畑・茶畑が一面に広がり、養蚕がさかんな地域でもありました。

治田神社は「石の博物館」のような神社で、様々な石碑が集められています。昭和9年の室戸台風により崩壊した老上小学校の復興の際、講堂の靴脱ぎ石に利用された「東海道・中仙道」の道標は、四角い角の一角だけが削り取られ、生徒たちが靴を脱ぐときに使った名残が見られます。南笠を流れるもう一つの川である狼川は田上から新浜までの約5.6kmを流れます。地元には「狼と大亀」から「大亀川」や「狼川」、また老上郷の地名から「老上川」

などと、川の名前が由来します。このことから治田神社の境内には厄除け祈念の親子の亀の石像もあります。また狼川近くのため池には昔から亀がたくさんいるそうです。

電気のない時代には、辻ごとに常夜灯に灯りがともされ、『文化文政』と刻まれた古い常夜灯も神社の片隅にあります。これも南笠の歴史の重みを感じる一面です。

1773年に仙命尼が開祖したといわれる仙命庵は、鎌倉時代のものでされる市指定文化財「大日如来坐像」があります。7世紀末に建立された笠寺の本尊でしたが、織田信長の比叡山焼き討ちの際に地元の人々が仙像を背負って逃げ、地下に隠して守ったという説話が伝えられています。本尊は江戸中期から治田神社にまつられ、明治の神仏分離により仙命庵に祀られることとなりました。

どこか懐かしさを残すくねくねと曲がる路地の先に浄安寺があります。浄安寺の庭には「お越懸けの石」があります。さて誰が腰をかけた石なのでしょう。『寺伝によれば、1959年、本願寺第八代目の蓮如上人が、一番弟子である金森(守山市)の道西にお出会いする途中、当寺にお越しなされました。境内の中庭にあった石におかけなられてご休憩されたといわれています。そこからこの石を「お越懸けの石」と言い伝えられ、今も中庭に現存します。』(浄安寺宝物より)。そう言われると、どこか趣のある石のような…

狼川とJRが交差するところにトンネル跡「マンボ」が残っています。明治22年の開通以来、蒸気機関車が通っていましたが、昭和31年の電化で新しい線路が整



俳句散歩「夏」

備され、「マンポ」はその役目を終えました。電車に乗って京都方面へ向かうとき、左の窓を注意して見てください。ほんのわずか、レンガづくりの立派なマンポが見えるはずですよ。

さて線路を挟んでマンポの反対側には南笠公民館があります。南笠公民館から田畑のなかを歩くと「一本木」と呼ばれる場所があります。その名のとおり、一本の大きなミズの木が目印のように立っています。

1月の第二土曜日に行われる「山の神のまつり」では、わらでつくられた蛇がこの場所でおくろを巻いて置かれます。この祭りは雨乞いと五穀豊穡を祈願するもので、治田神社を出発した神輿とわらの蛇は、南笠を練り歩きながら弁天池のお旅所で祈願され、その後この「一本木」に到着します。

古代の古墳や遺跡など古代のロマンに出会える南笠のような所は、市内ではなかなかありません。田畑の中の古墳、琵琶湖方面を望むと比叡山が優雅に広がる景色には、とてもどこかさを感じます。畑の中をぬつように流れる十禅寺川もまるで絵のような風景でした。

「このあたりから比叡山に沈む夕日が美しくてね。」と編集ボランティアの皆さんが教えてくださいました。ぜひまた訪れてみたい南笠の道でした。

(荒川茂美)



夏を代表する花や虫また行事は沢山あります。皆さんにとって夏とは何でしょうか？

今回は夏の代表選手としてセミと花火の俳句を選んでみました。(解説 橋詰辰夫)

俳句散歩「夏」

子がねむる 重さ花火の 夜がつづく

多佳女

磯田多佳女は明治12年に京都の祇園に生まれ、才女で鳴らした芸子でした。

場所柄、数多くの文人、画家に遭い、啓蒙されて歌や俳句をたしなんだようです。

子どもにせがまれて、花火見物に行つたのですが、花火半ばで子どもはもう母親の背中で、すやすやと寝てしまつたのです。寝ると二倍になると言われる子供の重さを持って余しながらも、親は背中に眠る子供とのスキンシップに子育ての幸せを感じ、家事から一時解放される花火見物が続けていたんでしょうね。

閑や 岩にしみ入る 蟬の声

芭蕉

芭蕉が奥の細道行脚の途中で、山形の立石寺を訪れた際に詠んだ有名な俳句です。奥の細道では、立石寺の様子を「岩上の院々扉を閉じて、物の音きこえず。岸をめぐり、岩を這て、仏閣を拜し、佳景寂寞として、心すみ行くをおぼゆ。」とあってその後この句が書かれています。

在るがままの情景を削りに削つた単純な言葉で作句しているのが、一見風景が見えて来ませんが、反って、無色透明なダイヤモンドに高貴な妖しさ、また無限の奥行きを感じるように、心の奥に深い印象を残す秀句だと私は思います。藤原三代の栄華と義経の悲話を心に抱きながら、やかましい蝉時雨の中の静寂、静寂の中の蝉の喧騒に感じ入る芭蕉の感性は、やはりただ者ではないですね。



募集!

まちかどしポーター講座

私たちのまち草津には、日々の暮らしの中で大切に育んできた文化や歴史、伝統、言い伝え、知恵、遊びなど『まちの物語』がたくさんあります。そんな『まちの物語』を見つけて、ホームページ「932情報ネット」を通じて伝えてくれる「まちかどレポーター」になってみませんか？

実際のレポートの前に、下記の講座がありますので、初めての方、パソコンが得意でない方もご安心ください。

① まちの輪郭をとらえよう

「地域性」をキーワードとした草津の概論です

8月4日(土) 10:00~12:40 市立まちづくりセンター
講師 林田久充さん(草津市政担当理事)



② まちの物語を伝えよう

～心が伝わる文章とは～

まちの表情や物語、感動を
自分の言葉で伝えるには

8月25日(土) 10:00~12:30
市立まちづくりセンター
講師 小西光代さん(長浜みーな編集長)

④ HP「932情報ネット」

への書き込み

ホームページの書き込む方法と実技
投稿の際の注意点

9月22日(土) 10:00~12:30
草津コミュニティ支援センター
講師 吉田知津子さん(ばそらぼ代表)

③ まちのNEWSな歩き方

実際にまちを歩き、
関心を持つことから始めよう

9月8日(土) 10:00~12:30 (場所未定)
講師 (特活) おうみNPO政策ネットワーク

すべて参加費は無料です。
1回のみ参加も可能です。

申し込み・問い合わせ

(財) 草津市コミュニティ事業団

TEL 565-0477 FAX 562-9340

メール com-com@mx.biwane.jp

編集後記

▼滋賀自立生活センターで、傷痍軍人という懐かしい言葉も聞きましたが、日本の福祉の原点がこの人たちの援助から始まっているのを知り驚きました。(中井) ▼ハンディキャップを持った人達の生への意気込みを知り、我が人生との差を思い知り、ウルウルしました。(橋詰) ▼南笠を訪れると急速に進む都市化のなかで、時が止まったかのようにひっそりとたたずむ建築物たち。不思議な空間を取材という形でもっともっと体験していきたい。

(大村) ▼草津の市民活動をしている6団体にアンケートをしました。同じ思いの仲間と悲しいこともあるけれど、熱くなるような感動もあるからがんばれる、そんな生き方ってスゴイ!(荒川) ▼仕事柄、市民活動をしている多くの人に出会うことができ、刺激を受けます。活動は様々ですが、共通していることはみんな生き生きと輝いていることです。(茶木)

市民編集ボランティア募集!

「コミュニティくさつ」は、市民がつくるまちづくり情報誌として、取材や編集を市民編集ボランティアでおこなっています。

草津のことをもっと知りたい方、まちづくりや市民活動・地域情報などに関心のある方は、ぜひ事業団にご一報を!

コミュニティくさつ編集部

(財) 草津市コミュニティ事業団内

〒525-0037

滋賀県草津市西大路町9-6(まちづくりセンター内)

電話 (077) 565-0477

ファックス (077) 562-9340

メール com-com@mx.biwa.ne.jp

URL http://www.kusatsu.or.jp/

community



再生紙使用

～地球にやさしいまちづくり～